

台風第 10 号に対する農作物等管理技術対策について

令和 6 年 8 月 23 日

埼玉県農林部

台風第 10 号は 23 日（金）現在、日本の南を北上しており、この後の進路予想では 27 日（火）～28 日（水）頃にかけて、本州付近に最接近する見込みのため、暴風や大雨に嚴重な警戒が必要となります。

そこで、農作物等管理技術対策資料を作成しましたので、参考としてください。今後の台風の進路等の気象情報に十分注意し、早めの対応をお願いします。

（前：事前対策、後：事後対策）

また、高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。

畑作、水田共通事項

- 前
- 1 安全第一とし、台風が接近中に河川や用水路が増水している場合にはほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。
 - 2 畑作ほ場では、排水路や暗きよの点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
 - 3 事前準備は台風接近前に終え、通過中は屋外での作業やほ場確認を避ける。
- 後
- 1 安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
 - 2 通過後、天候が安定したら、病虫害の発生を防ぐため薬剤防除を行う。

ハウス共通事項

- 前
- 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなど補強する。風で飛散する物がないよう周辺を整理しておく。
 - 2 いちご苗等で天井部のみを被覆するハウスは、入念に点検し対策を講ずる。
 - 3 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間から風の吹込みを防ぐ。
 - 4 大雨により施設内の浸水が心配される場合は、排水路の整備や出入口に土のうを設置する。
 - 5 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
 - 6 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稻

- 前** 1 台風接近時には強風による穂ずれ、葉の損傷、倒伏等を防ぐため、できるだけ深水管理を行う。
- 2 刈取適期に達しているほ場では、速やかな収穫に努める。
- 3 調製後袋詰めした製品は、雨漏りや吹込み、浸水による被害を回避できる場所に保管する。
- 4 収穫後の稲わらがほ場から流出すると、用排水施設の機能に支障をきたすので、すき込み等の流出防止対策を講じる。
- 後** 1 冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- 2 ただし、台風通過後の乾いた強風をとまなう場合は、風が収まるまでは湛水状態を保つ。
- 3 倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 4 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」が発生している河川から取水している地域では、水利施設等に溜まったゴミの中に「ナガエツルノゲイトウ」の切断茎が混入している恐れがあるので、拡散しないよう適切に処理する。

大 豆

- 前** 1 明きよや暗きよを点検し、必要に応じて排水路の整備を行い、速やかに排水できるように努める。
- 2 は種後 20 日以上経過している場合は、中耕や培土を行い、耐倒伏性を高めておく。

野 菜

◎露地なす

- 前** 1 強風に備えて、支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。
- 後** 1 停滞水にとまなう根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する。
- 2 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行う。
- 3 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎いちご

前 1 育苗ハウスの点検・補強をする。強風による損壊を防ぐため、雨よけハウスではビニールを縛り上げる等の対策を講じる。

後 1 育苗ほへの浸冠水は炭疽病や疫病の発生を助長するので、速やかな排水対策を行う。

2 遮光資材を適宜活用して、台風通過後の急激な温度上昇・乾燥を回避する。

3 風雨による炭疽病の発生拡大が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎ねぎ

前 1 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。

後 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する。

2 天候が回復次第、軟腐病・白絹病等を対象に速やかに薬剤散布を行う。

3 収穫期のは場では、高温多湿による軟腐病が拡大する前に、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。

◎ブロッコリー、キャベツ

前 1 育苗中のものは、強風にあおられないようハウス・トンネルを点検・補強する。特に寒冷紗などのすそは確実に土中に埋める。

後 1 風雨により軟腐病、黒腐病等の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

2 天候が回復次第、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。

3 土壌が流亡した場合は、株の姿勢を修正し、株元に軽く土寄せを行って倒伏やねじれを防ぐ。

◎えだまめ

後 1 白絹病等の発生が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎さといも

後 1 風雨による疫病の発生が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎にんじん

後 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

◎こまつななど軟弱野菜

後 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤散布を行う。

果 樹

前 1 収穫できる果実は事前に収穫する。

2 棚や支柱、網などを点検・補強し、樹体や棚の揺れを少なくする。

3 苗木については、主幹部の株元にビニールを巻くなどし、土はねを防ぐ。

後 1 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。

2 葉・枝の損傷が発生した場合は、なしでは黒星病、疫病、胴枯病、ぶどうでは晚腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

特に、降雹害を受けた園では、薬剤防除を必ず実施し、樹体の保護に努める。

花植木

前 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。

後 1 天候回復後、強光による日焼けを防止するため苗等は寒冷紗等で遮光する。

2 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。

3 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。

4 宿根アスター等の栽培に係る電照関連施設は速やかに作動状況を点検する。

茶

前 1 被覆棚の転倒等がないように点検を実施する。被覆棚については被覆資材をしっかり縛るなどの対策をする。

2 製茶工場内に雨水が侵入しないように煙突、屋根、雨どい、窓等十分に点検・整備・補強をする。

後 1 強風により葉ずれや葉傷みがあった場合には、殺菌剤を散布し病害の発生を予防する。

- 2 幼木園等において風により幹が回されたものは、早めの土寄せや敷き草を行い、地際部や根を保護する。
- 3 茶工場や防霜ファン、被覆棚、茶園の法面等を点検し、必要な修復を行う。

飼料作物

- 後
- 1 飼料用トウモロコシが倒伏した場合、収穫適期である黄熟期まで20日以上前（乳熟期より前）であれば先端の起きあがりを待ってから収穫・貯蔵を行う。
 - 2 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くので、収穫時には混入しないよう刈高を調整する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyou.html>